

## 令和4(2022)年「正覚寺報」8月号

## お知らせ

コロナはオミクロン変異株のBA5による第七波がお盆までの予想よりも早くやってきたようです。夏ですから冷房を掛けたまま長時間換気しないと危ないと言われていています。特徴は感染が早く一ヶ月位でピークに達するそうですがその分ピークアウトも早まれば救いです。国もこれまでの「宣言」は控えるようです。京都の祇園祭りも実施されたのが救いです。催しは、入室・帰宅時には手指消毒、マスク着用に心がけて行けばよいようです。

記

8月7日(日)19時半 佛壮お聴聞の会  
毎月16日実施の佛婦例会は、8月20日(土)  
の歓喜会に合同開催します。  
8月20日(土)10時 歓喜会

## 救いの御名のほとけさま

去る七月九日(土)、住職は、愛知下組下岡部は東福寺様での親鸞聖人讃仰布教大会に赴き、「救いの御名のほとけさま」で親鸞聖人讃仰布教をさせて戴いて参りました。

御法話をお聴聞なさるご門徒様、法中の皆様にお慶び戴けるよう親鸞聖人のお聖教に立ち返り、阿弥陀如来様から直接賜るお話を目指してご法話させて戴いて参りました。

前日に安倍 晋三元首相が選挙応援演説中に凶弾に倒れられましたので、御法話の冒頭で心からの哀悼の眞を捧げるべくご本堂にお参りの皆様とご一緒にお念仏させて戴き、厳かな雰囲気共有しました。

親鸞聖人讃仰布教の心は、コロナのお蔭で機運が盛り上がっていませんでしたが、来年

の親鸞聖人ご誕生八百五十年記念、立教開宗八百年記念のご法要のお待ち受けの心をこめてさせて戴くのご案内しました。御法話のいくつかを振り返りますと

「行け」というお釈迦様の励ましと「来たれ」という阿弥陀様のお招きによって私たちは人生の二河白道(にがびやくどう)を歩ませて戴くのだということ

東日本復興支援歌「花は咲く」をお参りの皆様と一緒に歌わせて戴き、歌の中には「聞こえる」という言葉が含まれていること。「聞こえてくださる」とは、浄土真宗で「聞名(もんみょう)」と言われるとても大切なお言葉であったことをご紹介致しました。

「疑わない」という限り、信は、唯一度の姿に留まりますが、「聞名」の「聞」と捉えれば、聞こえて下さるお名号の働きで捉えたこととなります。如来様に喚び覚まされるまでの三昧(さんまい)が広がっているからです。

六連島(むつれじま)のお軽さんのお歌

「鮎は瀬に住む 小鳥は森に

軽は六字の 中に住む」

「昨日聞くのも 今日又聞くも

是非にこいとのお喚び声」は、五木の子守歌で頂戴しますと胸にせまります。

原口 針水和上は、大蔵(だいこん)和上のお心に感じ入って

「われ称え われきくなれど なむあみだ

つれてゆくその 親の喚び声」とお歌いになったのであります。合掌